

揖斐郡教育研修センター通信 第4号 R5. 8. 9

令和5年度夏季研修Ⅰ（教育相談）のまとめ

7月31日（月）夏季研修Ⅰ（教育相談）を開催しました。当日は、各務原病院臨床心理士井上修一先生より、前半は児童生徒の「困り感」について、後半は実践事例をもとに支援のあり方についてお話しいただきました。

なお、本研修会には54名の先生方の参加があり、研修会終了後に以下のようなアンケートの回答をいただきました。今後の活動に是非ご活用いただければと思います。

1 夏季研修Ⅰ（教育相談）講話より

◇「不登校傾向にある児童生徒についてどのような視点からアセスメントをし、本人の困り感を理解していくか？」

- ・ 困り感とは、誰にとっての困り感？
- ・ 児童生徒の感情に寄り添うとは？
- ・ 児童生徒を取り巻く環境について（仲間・家族など）

- ・ 児童が困った時というのは、児童自身の背景を確実に掴んでいくことが大事で、決して児童を否定するものであってはいけないということが分かった。
- ・ 困り感の捉え方について、子ども視点ではなく、大人視点での対処になりがちだったので、改めて見直していこうと思った。
- ・ 子どもの困り感を発達のかたより、周辺環境などから分析すること。
- ・ 生徒の問題に対して、様々な視点(問題行動、症状)そこから増幅された問題ということを考えてくることは無かったので、支援や問題のある生徒に対して分析をしながら対応していきたいと考えることが出来た。
- ・ 感情の承認が大事である。
- ・ 承認をすること、周りとの関係性をよく知ることなどを学び、これから生かしていきたいと思った。
- ・ 子どもがマイナス感情を抱えながら行動できるようにするために、感情の承認をしたり、感情と行動を分けることを目指したりすることの大切さを再認識できた。
- ・ ADHD 特性がある子に対して、代替の対応を示すことが有効だということ。
- ・ 感情の承認は、ただ感情のままに行動することをよしとするのではなく、マイナスな感情を持ったままいかに行動するかというところ。
- ・ マイナス感情を抱えながら、行動できることが大切であるというところで、生徒から「めんどくさい」や「なんでやるの？」という言葉が出ることもあり、うまく説明ができなかったが、赤ちゃん・小学生・大人の資料なども見て、理解が深まり、少しすっきりすることができた。
- ・ 子供だけでなく、家庭や学校との関係、過去のトラウマなどを踏まえて、考えていくのが大切だとわかった。
- ・ 些細なことでトラウマがフラッシュバックしてしまうことがあるということで、相手本位に考えることの大切さを学んだ。

◇「代表的な事例を3つ挙げ、アセスメントから支援計画の立て方、支援のあり方について考える。」

- ・ 支援体制のあり方＝キーパーソンを核とした支援体制づくり
- ・ スモールステップを基本とした活動づくりと自己肯定感の醸成及びその認知（承認）について
- ・ 母親（家族）への支援

- ・ 様々な事例を聞き、今の自分の学級と比べることができたから。
- ・ すぐに実践できるような具体的な行動や対応の仕方を学べたこと。事例に沿って対応を考えられたこと。
- ・ 子供が起こす行動の子供の困り感を考えて対応する大切さ実態を思い出しながら、新たな気づきがあった。
- ・ 実際に児童にどう関わるとよいかイメージできた。
- ・ 実践的なケーススタディで、自分なりに考える活動があったこと。
- ・ 2部で、仮想事例を元に対応の仕方を考えてみると、様々な背景を考えていかないといけないことを

実感したと共に難しさを感じた。些細なことでも情報が必要で、情報を繋いで児童の背景を把握しなければならないと分かった。

- ・仮想事例を通して、生徒の背景にあるものはいくらかでも考えられるということがわかり、今後に生かせると思った。
- ・アセスメントの視点が学びになりました。また、仮想事例の検討では、学んだ視点を活用することで、この研修の内容を日常に落とし込むことができた。
- ・どんな要因があって問題行動が現れるのか、どんな対処や解決のための方法があるのか等どんなアプローチをしたら良いかがわかった。
- ・感情のコントロールができなければ指導が入らないことがあり、まずは感情を承認することが大切だということが分かり、普段の教育相談から活用していきたい。
- ・感情の承認について、頭ごなしでの指導ではなく、感情には共感し、感情を言葉にしてあげることを実践していきたいと思う。
- ・教育相談を、学校現場レベルでわかりやすく教示くださったことで、理解が深まるとともに今後の支援や対応等におおいに活かせる内容であったこと。仮想事例は、たいへんよいと思った。

2 今回の夏季研修講座Ⅰ「教育相談」を通じて今後自校や自分の職務で生かしていきたいこと、要望等

- ・学級での生活で困り感のある生徒への接し方や彼らに対する生徒の関わらせ方。
- ・通常学級に在籍する、発達グレーの児童や、知的に遅れがみられる児童、保護者への対応。また、そのような児童が在籍する学級での全体に向けた授業の在り方。
- ・教室に入るのに抵抗を感じる子どもたちへの関わり方について。
- ・通級指導教室に通う子供達の支援について。
- ・思春期の児童とのかかわり方。
- ・性に関すること。※LGBTQ
- ・カウンセリングの基礎について。
- ・子どもや保護者と信頼関係を築いていくための具体的な方法について。
- ・リストカットや、ピアスの穴開けなど自傷行為を行う生徒への指導、対応の仕方。
- ・LDの児童への対応について。
- ・教育相談を進めていくうえで、医療等の他の機関とのつなげ方、アセスメントの仕方をさらに掘り下げて研修したい。
- ・特別支援教育について。現在通常学級にいる子たちと一緒に授業を行っているがどのようにたくさんいる中で特別支援学級の子だけを支援するわけには行かない状況である。その際にどのように支援していけばいいのかを学びたい。
- ・いじめ対応の事例研修について
- ・今回のように実践例をもとに考える活動がほしい。※よりの確に対応できるために

◇令和6年度の「夏季研修」で取り上げてもらいたい研修内容

1	授業作りや教科指導に関する研修	16	7%
2	学校運営や学級経営に関する研修	14	8%
3	教育相談・カウンセリングに関する研修	13	0%
4	ICT活用に関する研修	13	0%
5	特別支援教育に関する研修	9	3%

上記以外に

危機管理に関する研修

キャリア教育・生き方に関する指導についての研修

企業や専門機関から講師を招いての研修

健康教育に関する研修 がいずれも 5.6%であった。

夏季研修Ⅰ（教育相談）担当：揖斐郡教育研修センター 主幹 福田昌彦